

きゅうしょく だより

2023年
9月号

9月になりました。まだまだ残暑が厳しいですが、朝夕は少し涼しくなってきました。いよいよ実りの秋がやってきます。美味しいお芋やくだものがたくさん食べごろを迎えます。夏の暑さで疲れた体を、美味しい秋の味覚で整えましょう！

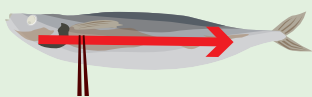


防災の日

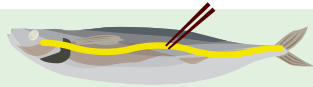
内閣府は9月1日を「防災の日」、前後の1週間(8月30日から9月5日まで)を「防災週間」と制定しています。今から100年前、1923年(大正12年)9月1日に発生した「関東大震災」が由来です。日本列島はその後、地震だけでなく、豪雨や台風などによる大規模な災害に見舞われ続けています。「防災の日」をきっかけに、親子で防災の絵本を読んだり防災グッズの中身を確認するなど、防災に対する意識を高め、災害に備えましょう。



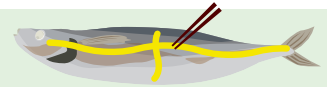
魚の上手な食べ方



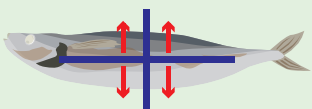
① おはしであたまからしっぽまでまん中をおす



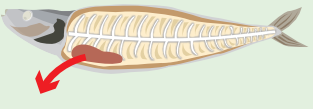
② おはしでまん中^{なか}にあたまからしっぽまできれめをいれる



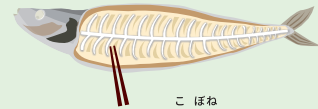
③ タテにもおはしできれめをいれる



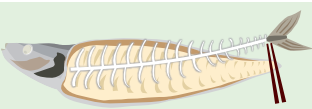
④ 十の⁺ところをやじるしのようにひらく



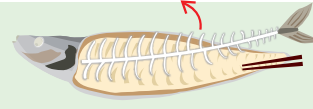
⑤ おなかのちやいろい「はらわた」をおはしでとる



⑥ ひらいたみの小骨^{こほね}をおはしでとってうえのみをたべる



⑦ しっぽをもってほねをはがす



⑧ したのみをたべる



じょうずにたべられました！

近年不漁が続いていますが、新鮮で脂ののったさんまが手に入るときは、秋の味覚を味わいましょう



キッズチャレンジクイズ

おうちなど、建物の中にいるときに地震がきたら、まずはどうする？



モグちゃんと一緒に学ぼう！ 子ども食育



給食だよりのバックナンバーや食育めりえなど情報満載！



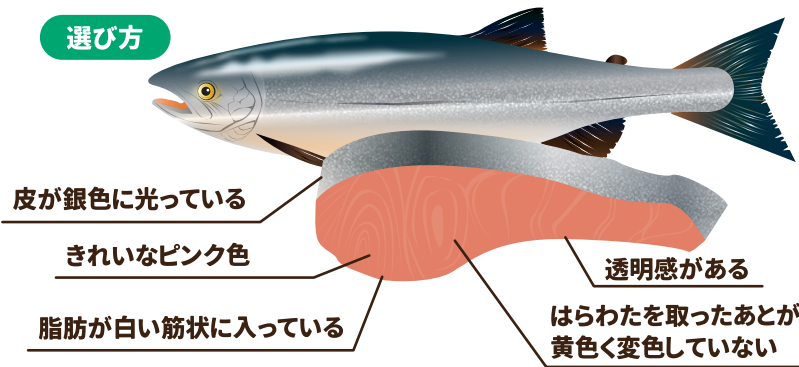
© 2023 シダックス栄養士会

シダックス栄養士会のロゴと連絡先情報。

SHIDAX
未来の子供たちのために

きせつの食べ物探偵団♪ 「鮭」

選び方



※パックに入っている時はドリップ(魚から出る汁)が出ていないことも確認しましょう!

栄養素

ビタミンD(カルシウムの吸収を促す)

豆知識

身のピンク色は、アスタキサンチンという色素によるもので、甲殻類のプランクトンを食べることで蓄積されます。エビやカニの殻、鯛や金目鯛の表皮の色もアスタキサンチンによるものです。



きせつの食べ物で料理

鮭のホイル蒸し

材料:2人分

生鮭	160g (2切れ)	バター	5g
塩	1g (小さじ1/6)	タマネギ	25g (1/6個)
胡椒	少々	エノキ	15g (1/7袋強)
カツオ出汁	15ml (大さじ1)	シメジ	15g (1/7袋強)
醤油	7g (小さじ1強)	大葉	1g (1枚)



- 1 生鮭に塩、胡椒をふり、カツオ出汁と醤油をふりかけ、冷蔵庫に10分程置いておく
- 2 アルミホイルを鮭1切れが包める大きさ2枚重ねにして広げ、バターを塗る
- 3 2のホイルに鮭をのせ、タマネギ(薄切り)、エノキ(根元を切る)、シメジ(小房に分ける)を重ねて、鮭を漬けていた調味料を小さじ1杯(1人分あたり)かける
- 4 中身が漏れないように、アルミホイルで包む
- 5 フライパンに1cm程度水を張り、沸騰したら④を並べ、蓋をして弱火で10分ほど、鮭に火が通るまで蒸し焼きにし、刻んだ大葉を飾る

かんたんお月見レシピ

きぬかつぎ

里芋の一部に皮のついた様子が、平安時代の女性の衣装「衣被ぎ(きぬかつぎ)」に似ていることからこの名前がつけられました。

材料:2人分

里芋	240g (8個)	ゴマ(白)	1.5g (小さじ1/2)
味噌(白)	6g (小さじ1)	ゴマ(黒)	1.5g (小さじ1/2)
調味料A 砂糖	2g (小さじ1/2強)		



- 1 里芋は泥を落とし、水を替えながらしっかりときれいに洗う
- 2 里芋の底を少し切り落として座りを良くし、里芋の下から1/3に包丁を入れてグルッと一周切れ目を入れる
- 3 蒸し器に水を張り、火にかけて蒸気が立ったら、2の里芋を入れ強火で10~15分蒸し、竹串がすっと刺さるくらい柔らかくなったら火を止める
- 4 【調味料A】を耐熱容器に入れて、600Wの電子レンジで10秒弱加熱してかき混ぜる(量が多い場合は砂糖が溶けるのを目安に調節する)
- 5 3の里芋の粗熱がとれたら、下部の皮が取れないように押さえながら、上部の皮を剥く
- 6 里芋に4の甘味噌をつけ、白ゴマと黒ゴマを合わせたものをまぶす

里芋に甘味噌をつけたり、ゴマをまぶす作業をお子様によってもらいましょう。

